

くまもと・わくわく基金（市民公益活動支援基金） 令和3年度（2021年度）助成事業プレゼンテーション議事録（要旨）

- 1 開催日時：令和3年（2021年）2月15日（月） 13時30分から
- 2 開催場所：熊本市総合保健福祉センター ウェルパルクまもと1階
熊本市市民活動支援センター・あいぽーと
- 3 市民公益活動支援基金運営委員
・出席者： 古賀 倫嗣 委員長（放送大学 熊本学習センター 客員教授）
越地 真一郎 副委員長（熊本大学 客員教授）
水野 直樹 委員（一般社団法人 スタディライフ熊本 理事）
中島 久美子 委員（特定非営利活動法人 熊本県子ども劇場連絡会 理事長）
吉永 京子 委員（公募市民）
白石 義晴 委員（文化市民局市民生活部長）
藤川 潤子 委員（東区役所区民部東部まちづくりセンター所長）
- 4 プレゼンテーション（団体発表6分、質疑応答3分）質疑応答要旨

【UP-1：NPO法人 ガット】

申請事業名：熊本市立小・中学校の学校図書館活性化事業

（中島委員）

（図書館リニューアル事業の過去の成果を踏まえ）子どもたちが図書館にとっても来やすくなったと思いますが、今まで来ていた子どもたちよりもっと人数が増えたとか、そういう人数的な増加などは把握されていますか？

（団体）

各学校の図書館の先生方は把握していらっしゃいますけれども、私たちの団体は具体的な人数として把握していませんが、先生方よりとても子どもたちが来るのが多くなったと聞いています。

私自身の住んでいる校区の学校をリニューアルした時は、保護者の方などから、「すごくなった、ありがとうございます」と、たくさん声を掛けていただきました。来館者とか、貸出冊数とかの数の具体的な増減は確認していませんが、先生方から、利用者などは増えているというふうにお聞きしています。

（白石委員）

今の質問と少し似た質問になりますが、いろいろな学校図書館が良くなったという声は上がっているということですが、その検証などはお考えですか？ 実際にアンケートを取って増加数などや効果を検証するなど、何かされるご予定はありますか？

(団 体)

出来れば行いたいと思っておりますが、各学校に依頼して、「どれくらい貸出しが増えましたか？」とお伺いするのは、個人でいうならば、プライベートに関わるようなところもありますので、難しい面があります。

(越地副委員長)

20年度は5校、21年度は7校を実施目標にしておられます。実際はそれ以上の潜在的リクエスト、需要はあるとお思いですか？ もう一つは、皆さんの活動の効果は歴然としています、一方でこういった図書館環境の改善は本来、各学校、もしくは教育委員会がそれぞれ整備すべきことかな、という気がします。その点について、お考え、気持ちをお聞かせ下さい。

(団 体)

潜在的な需要はとても多いと思います。ただ、いまコロナウイルス感染症の影響で、ちょっと動きづらいところがあります。それからもちろん、教育委員会や熊本市とか、公共のところでしていただけるのでしたら、こんなにうれしいことはないのですけれども、現実問題として、やはり、この厳しい財政難の中で、少しでも図書館をよくしていくためには、私たちの体や知恵を使って、学校教育とか、図書館教育に貢献できればという気持ちで続けています。

【UP-2：NP0 法人 ディスカバリーくまもと】

申請事業名：熊本の誇る「奇跡の地下水」と水前寺成趣園を英語でガイドするための子ども講座

(吉永委員)

私の親族に海外在住の子がおりまして、以前、1か月間熊本に来た際に、「水前寺に行きたい」といい、連れていくと、ものすごく感動して、「今度来るときは、あそこに泊まりたい」と言っていました。ガイドさんがいらっしゃるという事を知らなかったもので、一生懸命、日本語英語を使って説明しました。申請事業（水前寺成趣園を英語でガイドするための子ども講座）の内容を見て、とても期待しています。

(団 体)

ありがとうございます。

(藤川委員)

以前から熊本城ですとか藤崎宮ですとか、そういったところでも活動をされていると思いますが、今年度はどちらの方で活動されたのか、また、令和3年度（今回助成申請事業）は水前寺界限ということなので、砂取小と出水小に毎回募集をかけられているということかを、確認のためにお尋ねします。

(団 体)

今年度は残念ながら、コロナ禍で経済的な面も含め様々な影響があり、実施することができませんでした。なので、ぜひ来年度は、水前寺成趣園の本当の素晴らしさを子どもたちに伝えていきたいと思っています。私たちはガイドをしながら、いろいろ調査をして、取材活動を行う事で素晴らしい感動を得、絶対、英語でガイドしたいという思いを強めました。その想いをまた子どもたちへも伝えていきたい。そしてもう一つは熊本の水の素晴らしさです。本当に他の大名庭園の中に見られないような、本当に素晴らしい湧水庭園です。熊本の水の素晴らしさ、私たちは水道をひねれば、その水が飲めるのですよね。それなんてもう、日本の中にいくつしかないだろうし、世界の中でも珍しい事だと思います。それを外国の人たちに英語で伝えたい。私たちのこの感動をまた子どもたちへ、保護者の方へ伝えることによって、さらに保護者の方たちが英語でガイドしたい、そういう思いを高めていただけたら、その達成感がまた、さらに熊本の地下水の素晴らしさをいろんな人たちにアピールすることになると思います。それともう一つは、水前寺成趣園がある参道ですけど、やはりこのコロナ禍で、本当に観光客の方が少なくなっています。そのためにもちゃんと私たちをカバーして下さっている参道の商店街の方たちのためにも、この英語講座を実践することによって、さらに商店街の活性化へとつないでいきたい。その思いが私たちに強くあります。以上です。

【UP-3：NP0 法人 ブライトパル熊本】

申請事業名：“行事を楽しむ” 親子いけ花

（白石委員）

（助成申請）資料の最後のところに書いてある、「中央区のまちづくりセンターと連携して地域活性化ポータルサイトの運用を小学校とか地域自治会と連携している」というのを、具体的に、どういう事をされているのかというのを教えていただけますか？

（団 体）

去年（2020 年）、小学校でポータルサイトを立ち上げられて、そこに地域のお店や活動などを掲載するコミュニティのホームページがあったのですが、それに付随して防災、ハザードマップなどを一緒に作ったりとか、あとホームページにそういった情報を載せたりとか、活動をお手伝いし一緒にさせていただいたという事です。

（白石委員）

わかりました。いけ花だけでなくこういった活動もされているという事ですな。

（団 体）

そうですね、いけ花の他にも、こういう地域の活動にも参加させて頂いています。

（藤川委員）

ひとつお尋ねしたいことがあります。ここに、来年度の予定として、全 4 回の講座をするというようなお話がのっておりますけれども、場所として、帯山にあるお店と、ほかに市外の場所となっておりますが、熊本市内において、帯山以外にどこか開催される予定というのはございますか？

（団 体）

この開催の場所が一番問題でありまして、ただ、いけ花をするという事であれば、どこか場所を借りればすぐできますが、それを数日間、展示をすることになりますので、その展示ができる場所という事で、価格的にも抑えられる場所で考えたところ、今のところ、ここに挙げた開催場所で考えていますが、また、今後調べて、いい場所があればぜひ、そこを利用させて頂きたいと思います。

【UP-4：エコ村伝承館】

申請事業名：体験型環境学習活動の熊本市内への更なる展開

（白石委員）

2020 年度、2021 年度とコロナ禍の中で活動をしていくというのはかなり大変かと思いますが、コロナの中での活動で気を付けられていることや、取り組まれていることなどはありますか？

（団 体）

私たちの活動は、対面で行うので、非常にコロナ対策に関しては気を遣って活動しています。特に今年の特徴で、屋外の活動ならば対策が行いやすいということで、竹トンボづくりや水鉄砲遊び、凧揚げ等、屋外の遊びを中心に、併せて、遊びながらも環境のことを勉強するという方法にして、そういった点で気を付けて活動しています。特に、受け入れ側も、非常にコロナ対策に気をつけていただいて、事前確認をして取り組んでおります。

（吉永委員）

私が住んでいる北区でも、たくさんのお年寄りの方たちが、子ども達と一緒に竹トンボづくりや凧を作って、遊んで、完成する喜びを感じ、子どもたちが、「あのじいちゃんすごかー！」と言いながら近所のお年寄りの方と仲良くできるのが、とてもいいことだと思います。頑張ってください。

（団 体）

ありがとうございます、北区にも何回も行っています。先ほど言いましたような外で遊ぶ活動、さっき言い忘れましたけれど、シャボン玉遊びなんかも、たいへん喜ばれて、水鉄砲とシャボン玉をセットにして、遊びながら環境のことについて勉強していただいています。

【UP-5：NP0 法人 コロボックル・プロジェクト】

申請事業名：里・夢プロジェクト

（藤川委員）

2 点、お尋ねしたいと思います。対象者というのが小学生だけのようだけれども、中学生ですとか、高校生とか大学生とかを交えると、もっと交流が広がるのではないかと思います。いかがでしょうか？ もう一点は、活動を西区だけに集中していらっしゃるようですが、熊本市内にたくさん、こういうところもあると思いますが、活動の場を拡げられる予定などがありますでしょうか？

（団 体）

一点目、対象についてはおっしゃるとおり、中学生、高校生の方々にも拡げていきたいなあと思っています。実情として親子での参加、就学前から小学生の方が多いです。また、どういう地域から来られるかという事に関しては、市内はもちろん、八代、合志市等々、近隣の市、町、こんなところから来ていただけるのだ、というふうな方々に拡がっておりますので、熊本市はもちろん、多くの地域から来ていただいて、私どもの課題が、熊本市に限らず拡がっているなあというのを感じているところです。ますます拡げていきたいと思っています。

（中島委員）

収支計画書のところでお尋ねしたいのですが、事業の収益が、10万、その内訳は参加費という記載があるんですが、これは何名ぐらいで、1人どのくらいの単価になるかなどは、どのように考えていらっしゃいますか？

（団 体）

ひとつの事業で参加費をお預かりします。案内から、材料代、保険代等々を含めて参加費をいただきますので、それをトータルとして10万として計上させていただいております。

（中島委員）

だいたい、何名の参加で、お一人の料金はおいくらくらいでしょうか。

（団 体）

20人を予定して15回ですので、これくらいの金額になるということで計上させて頂きました。

（中島委員）

ずっと継続しておひとりいくら、ということではないのですね？

（団 体）

はい。コロナウイルス感染症の状況で、人数を、例えば、3家族に絞り込むとか、いろいろ想定される状況がありますので、それは流動的という事を踏まえて、10万円を見越して計上させて頂いております。

【UP-6：NP0法人 くまもと新創生プロジェクト】

申請事業名：世界に誇る「くまもとの水」 啓発応援事業

（白石委員）

講座を4回行われるという事ですが、講座の講師というのはどなたがされるご予定なのでしょうか？

（団 体）

現段階で、この方を講師に、というのは決まっていません。まだ今の状態では、コロナ禍でどこまでやれるのかわからないというのと、どのような方々が来られるかによって、それに対応した講師を、と臨機応変に行いたいと考えているためです。講師には、あまり専門家をお呼びしたくないと思って

おります。専門家の方はどうしても、狭く、深い話になっていくので、もう少しわかりやすいというか、一般の人たちが理解しやすい、同じ土俵に立った方々でお話を進めて行けたらと思っています。

（白石委員）

わかりました、ちなみに令和2年度（今年度）はどういった方が講師をされましたか。

（団 体）

令和2年度も同じような考えで、例えば、熊本市内で100年続いていらっしゃる酒屋の店主の方とか、それから水前寺参道商店街の会長等、そういう一般の方々と近い方々で、より深く、ちょっとヒントになるような話をしていただける方をお呼びして講座を行いました。

（越地副委員長）

先ほどのプレゼンテーションで、身近にある水資源などを、何か地図とかに落とし込むようなことができれば…、とありましたが具体的にどんなことですか？

（団 体）

本当は今年度行う予定でしたが、コロナ禍で講座の開催が1回になるなど、いろいろあって実現できませんでした。具体的には、令和3年度は講座の資料に校区の白地図を1枚ずつ付けて、その白地図に自分たちで、たとえば、公民館の講座のグループの人たちが、自分の校区の水の位置を入れていくとか、水神さんがここにあるよとか、そういうのをに入れて、子ども達等に紹介するというふうにご利用できるような、資料作りを行いたいと考えています。白地図にしたのは、我々が作って置くより、皆で歩いて、白地図に自分たちで印をつけて作り上げる方がいいと思ったからです。

【UP-7：子育てネットワーク「縁側 moyai」】

申請事業名：子どもに伝えたい熊本の農業と食プロジェクト

（藤川委員）

活動拠点が南区と合志市ということですが、せっかくの活動なので、市内で南区以外に、活動拠点をもっと広げようという予定などはありますか？

（団 体）

はい。今も、団体の活動を、コロナということもあって、それぞれの区ごとに拠点を設けて、そちらの方で、と考えています。協力してくださる農家さんの範囲の都合もあるかと思いますが、そのように、今後拠点を広げる予定があります。

（中島委員）

ママ中心の活動だと思いますが、やはりこれからは、男性も子育て参画を、という視点にたつと、お父様、パパたちの参加はこれからどんなふうになっていくと思われますか？

（団 体）

イクメンという言葉が、もうだいぶ定着して、当団体の土日の収穫体験などでは、ぜひご家族で、お父さんもパパもぜひ一緒にということで呼びかけていますし、そうでない活動も、ぜひ来れるお父さんたちは、ということで募っています。実際に活動に参加して、お父さん同士で交流し、家族ぐるみでまた活動に参加いただくなど、そういったところもあります。

（越地副委員長）

転勤者ママも含めたと資料に書いてありますが、熊本の転入子育て世帯を対象とした団体がありますが、別団体（組織）ということによろしいのですよね。

（団 体）

はい、別団体（組織）です。ただ、そちらの代表の方は当団体のメンバーでもあるので、連携して、一緒に活動することもあります。

（越地副委員長）

うまく繋がればいいですね。

（団 体）

はい。当団体の中にも、その団体のメンバーもいっぱいいますので、頑張ります。ありがとうございます。

【UP-8：NP0 法人 傾聴ネットキーステーション】

申請事業名：災害公営住宅での傾聴活動における地域コミュニティづくり支援事業

（吉永委員）

私は、北区に住んでいて、地域の90代の方を6人みています。お子さんたちが帰ってこなくて、普段接するのがヘルパーさんだけなので、言葉を失っていらっしゃいます。私が訪問すると、「もう帰らんでくれ」と言われます。誰も話を聞く人がおらず、隣人が隣人を支えることが、本当に必要と思います。いま、私もまちづくりをもう一回、見直していただけたらって思いながら、中学校区においてボランティア教室をさせてもらっています。隣が隣を支えようという運動をしておりますけど、もう一回まちづくりを考えて、今後の活動をしていただくよう期待しています。

（団 体）

ありがとうございます。

（白石委員）

災害公営住宅等の集会場で、こういった活動をされるご予定ということで、どこの（特定の）災害住宅で、と決まっているのか、もうすべての災害住宅で活動される予定ですか？

（団 体）

最初は、実際にご相談いただいた地域からスタートしたいと思っております。明確に必要性、ニーズがあるという事なので。そこで、地元の方や、復興住宅に入られた方と、密接にお話ししながら、

ゆっくりと、でも確実に歩みを進めて、もしそれが、地域の方に喜んでいただけるような形になったら、他の地域にも広げて行けたらと考えております。

【UP-9：NPO 法人 KP5000】

申請事業名：ホープ・ルーム（心の回復を支える学びの場）

（白石委員）

詳しくなくて申し訳ないですが、この「ホープ・ルーム」という取り組みをもう少し詳しく聞かせてください。障がいを持っている方、当事者とその支援者がいっしょになって研修を行うという事なのかもしれませんが、具体的にはどういったことをして、それを他の人が見る、見て学ぶのか？など、内容を少し詳しく教えてください。

（団 体）

ホープ・ルームの一番の特徴は、当事者の方だけ向けにする研修とか、専門職の方だけに向けてする研修ではなくて、専門職と当事者の方々が同じ視点というか、同じ目線で、ひとつのテーマについて、それぞれの特異を発表し合って、それを周りの人と一緒に学びを深めていくということになります。具体例として、例えば、精神障害における回復とは何かというようなことを、昨年度テーマにしましたが、専門家が考えている精神障がい者の回復ということはこういうふうなもので、当事者からすれば、いや、実際私たちからすれば、回復というのはこういうふうなことをイメージしています、ということであるとか、これまでこういった体験を経てきて、こういう支えがあつてすごく助かったとか、こういうことで自分の気持ちが変わったとか、助かったということをお互いに話しあって、それをみんなで考えていくと、そういう活動になります。

（古賀委員長）

やはりこういった課題のときには、当事者の方のプライバシーの保護、これは非常に大きなことだと思います。ただ、それとともに、啓発というか、外に拡げていかなきゃいけない、そのジレンマとは、どういった折り合いのつけ方をされているのでしょうか？

（団 体）

そこは本当に私たちが大変考えていかなければならない問題でして、特に、今年度は途中からコロナの影響で活動をどうしようかとなった時に、オンラインでやったらどうかという意見がたくさんあったのですが、やっぱりオンラインだと当事者の方のプライバシーが守れないんですよね。会場で面と向かって一緒に学び合えるといいのですが、オンラインだと画面の向こう側で、もしかしたら録画されているかもしれないし、録音されているかもしれないし、私はその専門職としてソーシャルワーカーにながしですという事で済むけれども、当事者の方はやっぱりご自身の病気の体験談とかを話されるわけなので、そこは十分気をつけていかないといけないというふうに思います。

ですので、できれば対面式でやりたいと思いますが、どうしてもオンラインでやらざるを得なかったならば、事前の個別面談などを行ったり、知り合いの知り合いで参加者を募っていくという形にしたりしないと、なかなかプライバシーが担保できないのでは、というふうに考えております。

(ステップアップ助成申請団体全 9 団体の質疑応答終了。)

5、委員長総評（市民公益活動支援基金運営委員会 古賀委員長）

令和3年度プレゼンテーションについては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、非公開での開催となり、発表団体においても、滞在時間を短くするため、プレゼンテーション終了後退場頂くなど、開催にあたってご協力いただいた。

市民公益活動支援基金運営委員会 古賀委員長より、団体に向け下記の通り総評をいただき、団体には郵便で発送を行った。

【総評】

今回のステップアップ助成申請9団体のプレゼンテーションを聞いていて、興味深かったのがそれぞれの団体の事業企画に「重なり」がたくさんあることです。

まずひとつが「子ども」を対象としていることです。この、「子ども」が対象というのは、ご自身たちの活動が高齢化してきたことで、次代を担う若い人たち、子どもたちを、自分たちの団体のミッション（社会的使命）と活動の中で育てたいという想いがあることを今回、非常に強く感じました。その背景にあるのは、このコロナ禍の中で、子どもたちが自由に屋外でも活動できないという、そういった共通認識があるのではと思います。

2番目もそのことと重なる部分がありますが、今回、おもしろかったのが畑の作付けや、食べ物を一緒に調理するといった活動が入ってきたところです。そういった意味ではいわゆる食農教育というのか、大地の中で子どもたちをどう育てるか、という事業のねらいが明確でした。そして、栽培物を使うことの教材的な意味合いというのは、一週間や一月という単位でなく1年間という子どもたちにとっては実は長い時間なのですが、それを米の栽培であるとか、野菜の栽培、一つの畑の回転、様々なことを通して子どもたちに伝えたいというそういう想いがあったのかと思います。

3番目はこの「伝えたい」という言葉です。今回、「傾聴」であったり、あるいは障がいのある方へのサポート活動であったり、そういった意味では、単にコミュニケーションというだけではなくて、傾聴という言葉にありますように、共感、そしてあるがままの受容だといったスキル、あるいは障がいのある方の場合であったら、当事者主義など様々なことが、本当にコミュニケーションを具体化する内容や方法として浮き彫りになってきたように思われます。

やはり、市民活動の広がりの中で、不可視の部分、人間の内面を変えていくという、市民活動の根本的な部分が少しずつにじみ出てきたような、そういった事業の申請をしていただいたように思います。

今年度の申請団体、スタートアップ事業申請団体を含め14団体すべて、おもしろい活動であった、と後から言われるような、そういった芽をたくさん持っていらっしゃると思います。その芽に市民協働という「水」を掛け生長させ、市民が待ち望む大きな花を開かせるような取組みを期待しています。ぜひ今後も活動を見守りたい、育て上げていきたい、そういう想いを抱いたプレゼンテーションでした。ありがとうございました。

(終 了)